

第4章 高齢者の実態調査結果の概要

1 調査の概要

今後の高齢者施策の効果的・効率的な展開を図ることを目的として、2016(平成28)年度に高齢者本人、介護保険サービス利用者・未利用者・介護者、介護支援専門員及び大阪市内にある介護保険施設及び福祉施設を対象に「大阪市高齢者実態調査」を実施しました。

(1) 本人調査

調 査 対 象	市内に居住する65歳以上の高齢者から無作為抽出した19,390人		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7月1日～8月26日
調 査 項 目 数	45問(前回45問)	有効回答数	10,128件(52.2%)
調 査 概 要	世帯の状況、健康状態、日常生活の状況、就労・生きがいの状況、地域活動・社会参加の状況、将来の介護に対する考え、福祉サービスの利用状況意向 等		

(2) ひとり暮らし調査

調 査 対 象	市内に居住するひとり暮らし高齢者のうち、本人調査において「ひとり暮らし」と回答した方		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7月1日～8月26日
調 査 項 目 数	9問(前回9問)	有効回答数	3,096件
調 査 概 要	健康状態、日常的なつながり、緊急時の支援者の有無、療養について 等		

(3) 介護支援専門員調査

調 査 対 象	市内の居宅介護支援事業所等に勤務するすべての介護支援専門員4,495人(介護保険事務処理端末から抽出)		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7月1日～7月31日
調 査 項 目 数	37問(前回35問)	有効回答数	2,589件(57.6%)
調 査 概 要	担当している利用者の状況、サービス内容と課題、支援困難な利用者への対応状況、高齢者虐待の状況、居宅介護支援事業全般について 等		

(4) 介護保険サービス利用者調査

調 査 対 象	市内に居住する要支援・要介護認定者で、2016(平成28)年1月から3月までの3ヶ月間、介護保険サービスを利用した方から無作為に抽出した5,200人		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7月1日～7月31日
調 査 項 目 数	13問(前回13問)	有効回答数	2,443件(47.0%)
調 査 概 要	世帯の状況、健康状況、介護保険サービスの利用状況と利用に関する考え 等		

(5) 介護保険サービス未利用者調査

調 査 対 象	市内に居住する要支援・要介護認定者で、2016(平成 28)年 1 月から 3 月までの 3 ヶ月間、介護保険サービスを利用しなかった方から無作為に抽出した 5,600 人		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7 月 1 日～7 月 31 日
調査項目数	12 問 (前回 14 問)	有効回答数	1,909 件 (34.1%)
調 査 概 要	世帯の状況、健康状況、介護保険サービスの利用状況と利用に関する考え 等		

(6) 介護者調査

調 査 対 象	介護保険サービス利用者・未利用者調査の対象者を介護している者(介護サービス事業者を除く)		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7 月 1 日～7 月 31 日
調査項目数	利用者調査の介護者 17 問、未利用者調査に介護者 16 問 (前回 14 問)		
有効回答数	利用者調査 1,540 件、未利用者調査 1,281 件		
調 査 概 要	基本属性、介護の状況、介護上の問題点、介護保険制度についての意見・要望 等		

(7) 施設調査

調 査 対 象	市内にある介護保健施設及び福祉施設 (837 施設)		
調 査 方 法	郵送配付、郵送回収	調 査 期 間	7 月 1 日～7 月 31 日
調査項目数	20 問 (前回 22 問)	有効回答数	549 件 (65.6%)
調 査 概 要	利用者の属性、施設運営状況、サービスの質向上のための取組状況 等		

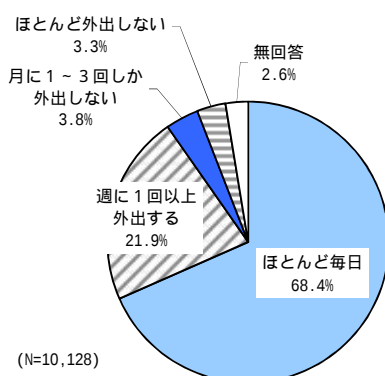
2 調査結果の分析

(1) 本人調査

外出の状況

本人調査によると、外出の頻度については、「ほとんど毎日」が68.4%と最も高く、「週に1回以上」を合わせると9割（90.3%）となっています。

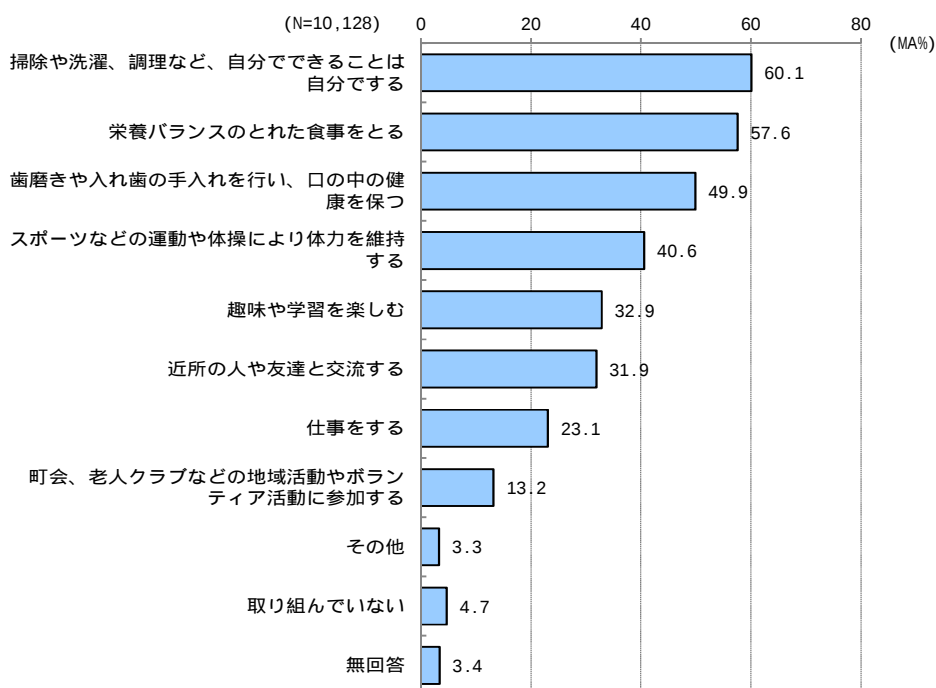
図表4 - 1 - 1 外出頻度＜本人調査＞(N = 9,851)



介護予防の状況

本人調査によると、介護予防のための取組みについては、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が60.1%と最も高く、次いで「栄養バランスのとれた食事をとる」が57.6%、「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口の中の健康を保つ」が49.9%となっています。

図表4 - 1 - 2 介護予防のための取組み



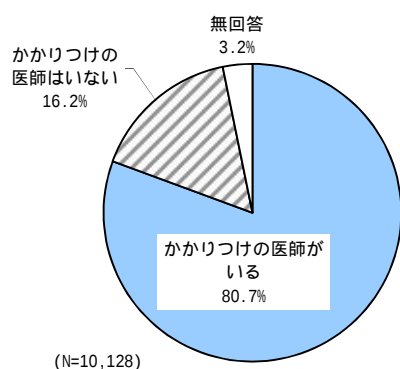
かかりつけ医の状況

かかりつけ医の有無については、「かかりつけの医師がいる」が80.7%に対して、「かかりつけの医師はいない」が16.2%となっています。

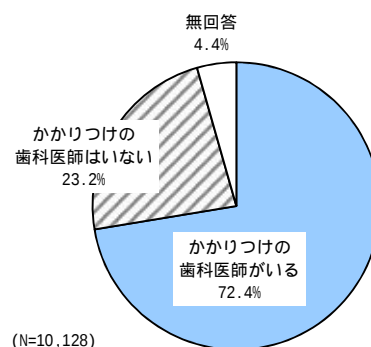
かかりつけ歯科医については、「かかりつけの歯科医師がいる」が72.4%に対して、「かかりつけの歯科医師はいない」が23.2%となっています。

区別でみると、かかりつけ医がいる割合は東住吉区が最も高く、かかりつけ歯科医がいる割合は北区が最も高くなっています。

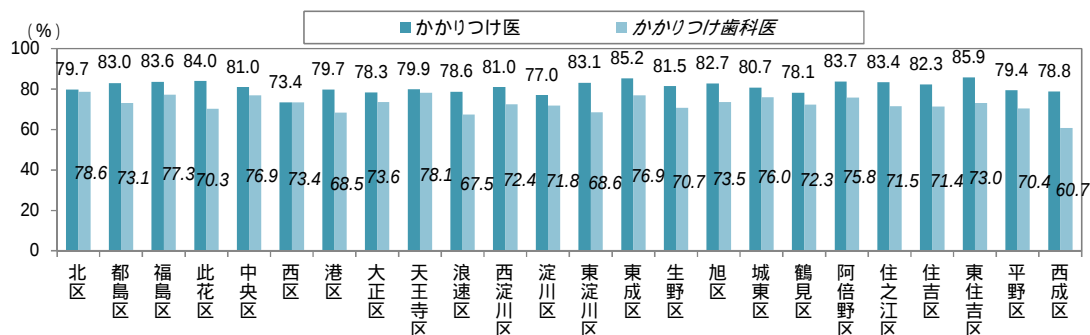
図表4 - 1 - 3 かかりつけ医の有無



図表4 - 1 - 4 かかりつけ歯科医の有無



図表4 - 1 - 5 かかりつけ医・歯科医のいる割合<区別>



在宅医療、希望する暮らし方について

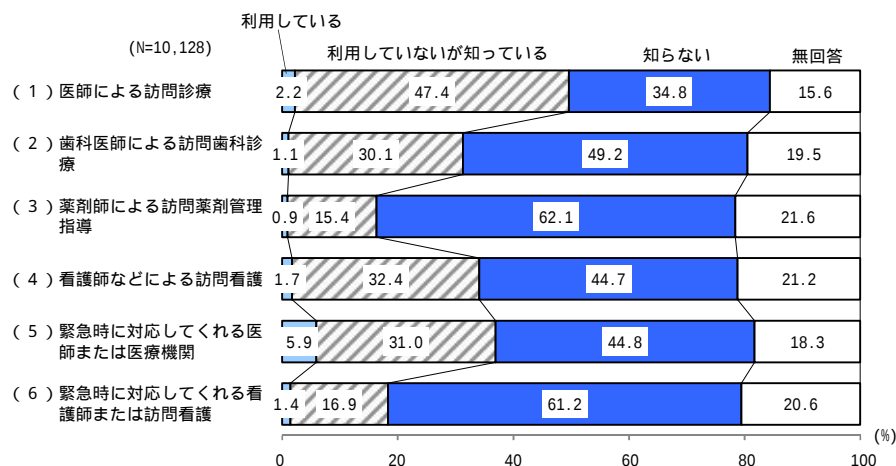
在宅で提供される医療について、「利用している」の回答割合をみると「(5) 緊急時に対応してくれる医師または医療機関」が最も高く5.9%となっており、「利用している」と「利用していないが知っている」を合計した認知度は「医師による訪問診療」が49.6%と最も高くなっています。

介護が必要になった時に希望する暮らし方については、「介護保険の居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が36.7%と最も高く、次いで「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が19.0%となっています。

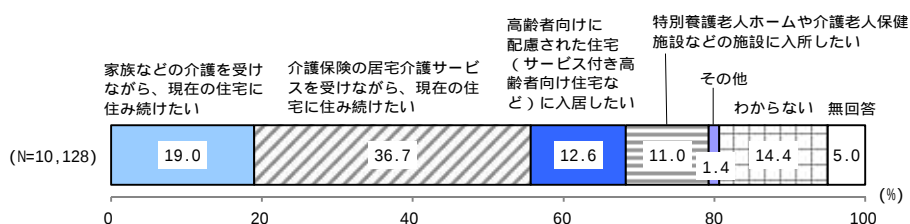
在宅生活の継続のために必要な支援については、「毎日の食事の準備・後片付けや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」、「在宅での医療や介護サービスなどの24時間支援

体制ができていること」、「病院まで送り迎えしてもらえること」の順に高く、上位項目の回答割合は前回調査結果よりも高くなっています。

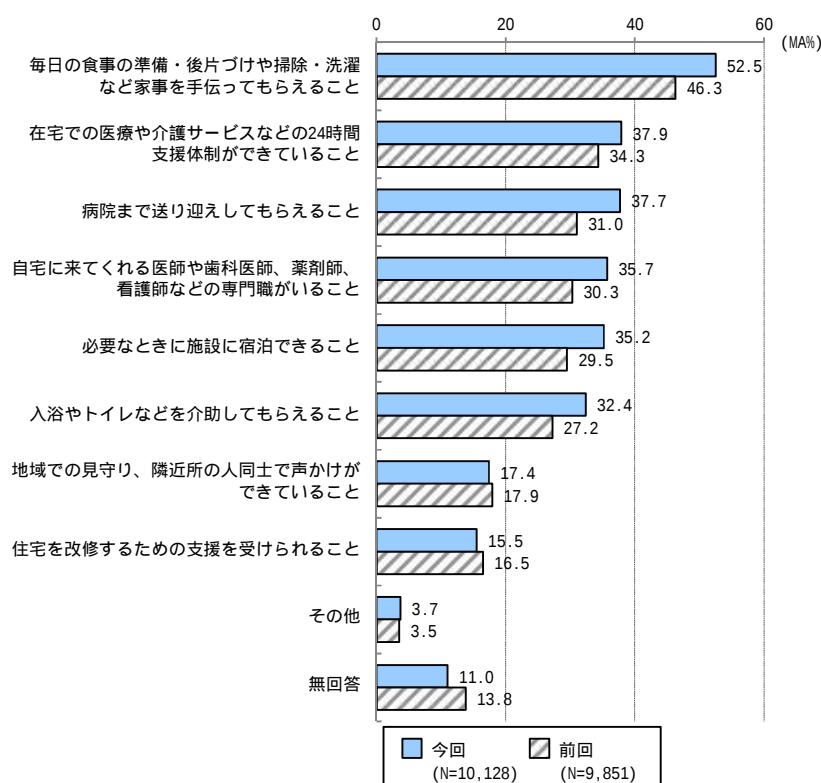
図表 4 - 1 - 6 在宅で提供される医療の利用度・認知度



図表 4 - 1 - 7 介護が必要になった時に希望する暮らし方



図表 4 - 1 - 8 在宅生活継続のために必要な支援



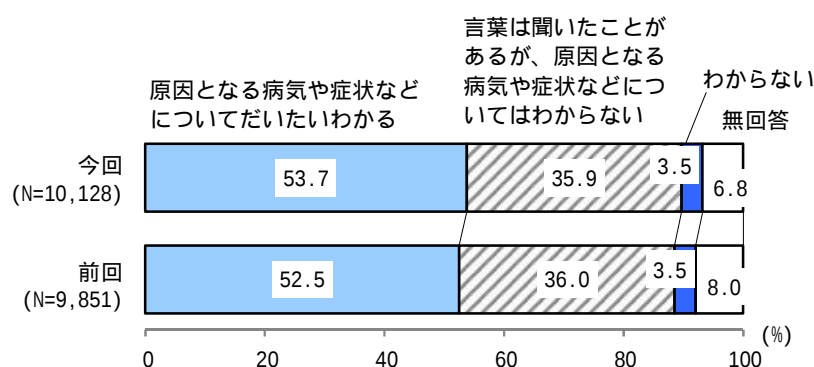
認知症について

認知症という病気の認知度については、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が53.7%で、前回調査結果よりも1ポイント回答割合が高まっています。一方、「言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状などについてはわからない」は35.9%と前回並みの回答割合となっています。

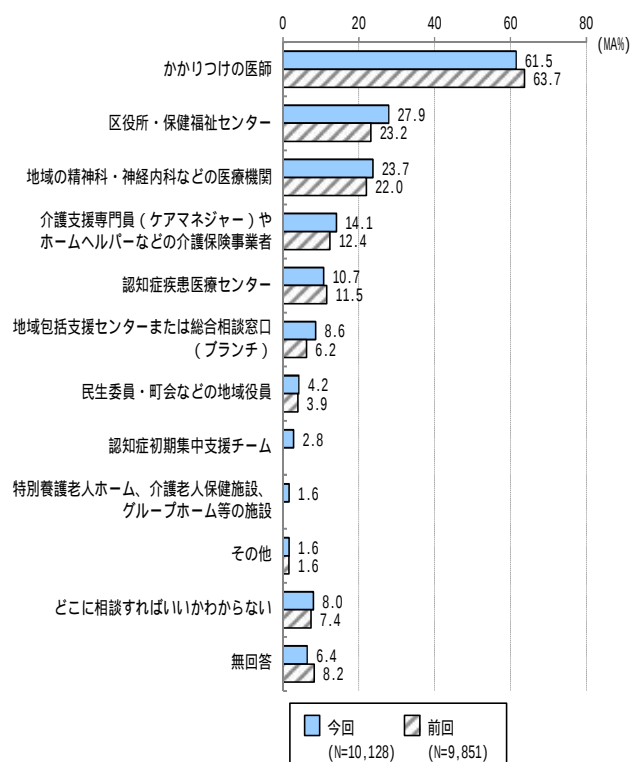
認知症を不安に感じる時の相談先については、「かかりつけの医師」が61.5%と最も高く、「区役所・保健福祉センター」、「地域の精神科・神経内科などの医療機関」が2割台となっています。

認知症の人の支援に必要なことについては、「認知症の早期発見への取組み」が55.5%と最も高くなっており、続く「認知症の人を介護する家族に対する支援」は45.9%で前回調査よりも10ポイント高くなっています。

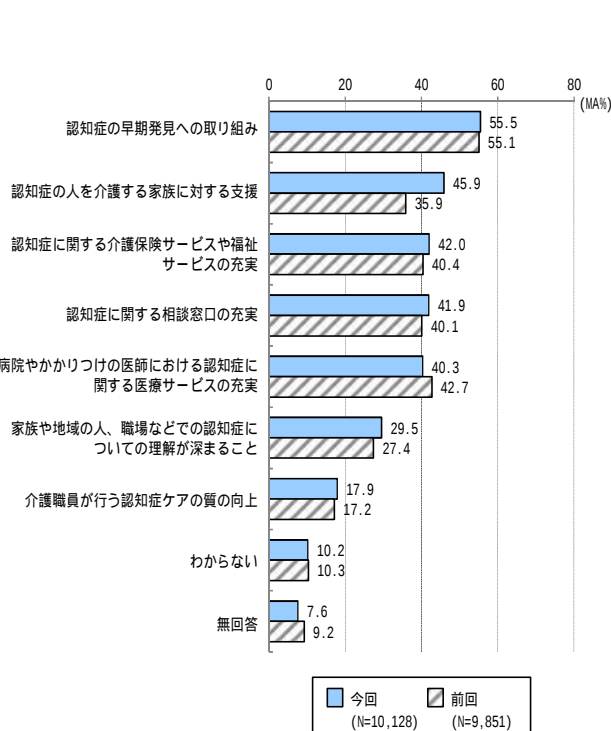
図表4-1-9 認知症という病気の認知度



図表4-1-10 認知症を不安に感じる時の相談先



図表4-1-11 認知症の人の支援に必要なこと

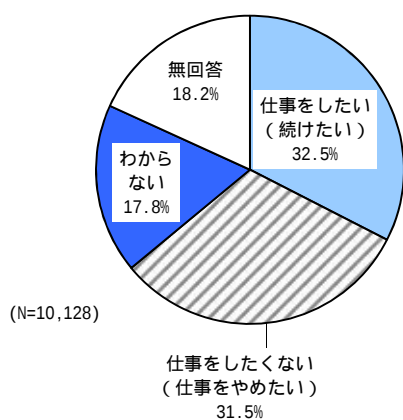


就労について

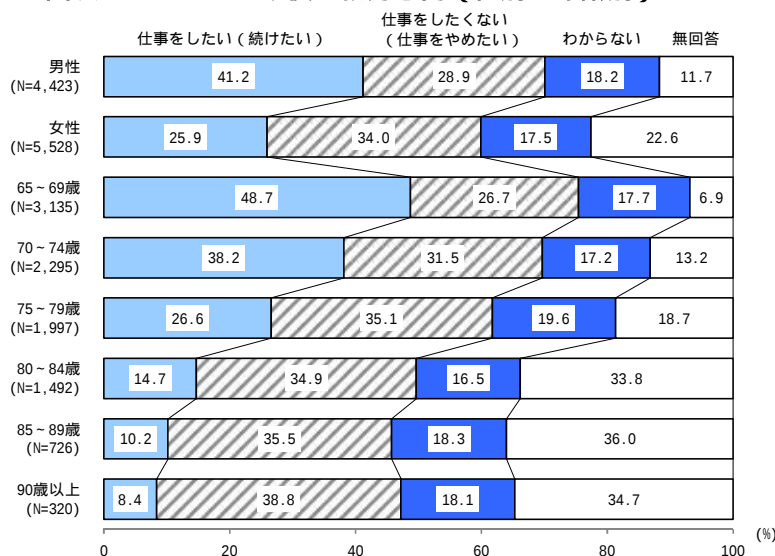
今後の就労意向については、「仕事をしたい(続けたい)」が32.5%となっており、性別にみると男性では4割を超えています。年齢別では、「仕事をしたい(続けたい)」が65～69歳で半数近くを占めていますが、高齢になるにつれて「仕事をしたくない(仕事をやめたい)」が増加し、75～79歳で割合が逆転しています。

仕事をしたい(続けたい)と回答した人に、その理由をたずねると、「健康に良いから」が59.3%で最も高く、次いで「生きがいを得られるから」が55.5%、「生活費が必要だから」が49.5%となっています。前回調査と比べると、「健康に良いから」が前回よりも高い割合となっています。

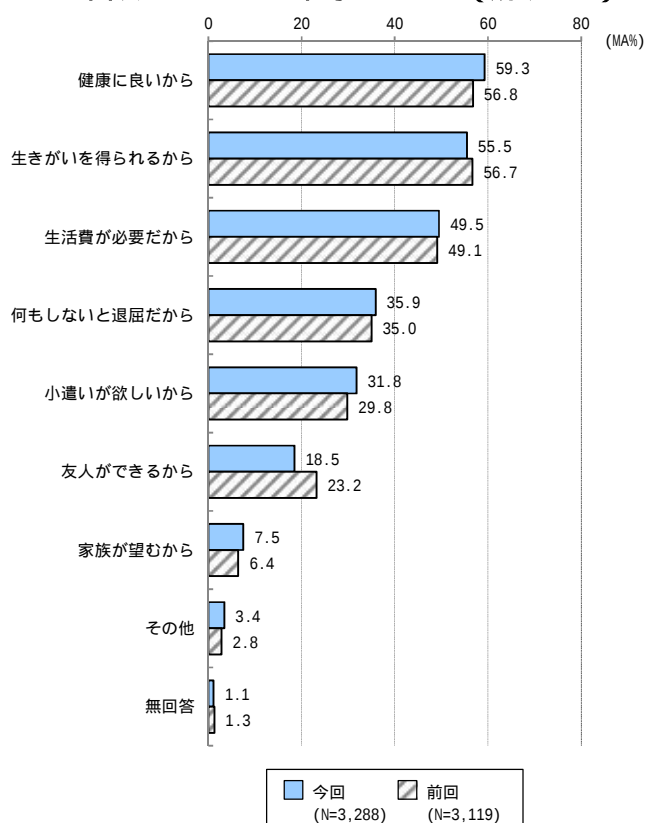
図表4 - 1 - 12 今後の就労意向



図表4 - 1 - 13 今後の就労意向(性別・年齢別)



図表4 - 1 - 14 仕事をしたい(続けたい)理由



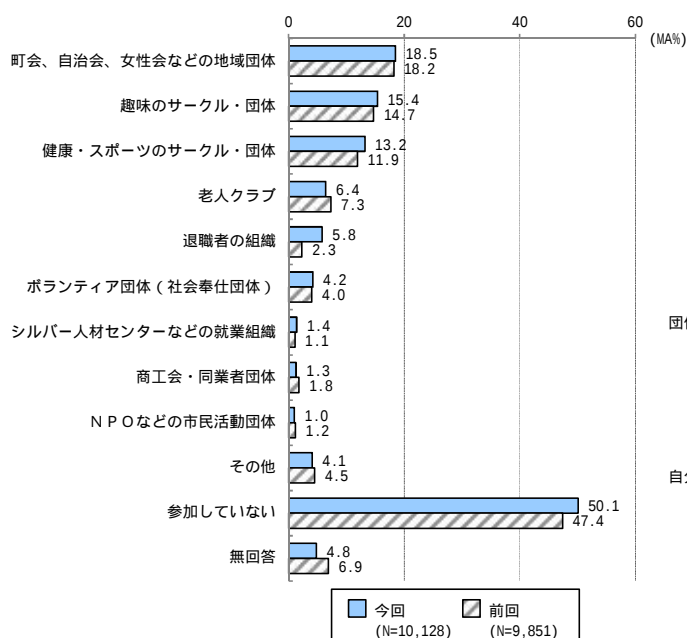
地域活動について

現在、継続的に参加している活動では、「町会、自治会、女性会などの地域団体」、「趣味のサークル・団体」、「健康・スポーツのサークル・団体」などが挙げられていますが、回答割合は「参加していない」が最も高く 50.1%となっています。参加している人のきっかけでは「健康のため」との回答割合が高く、参加していない人の理由では「興味をひくものがない」が高くなっています。

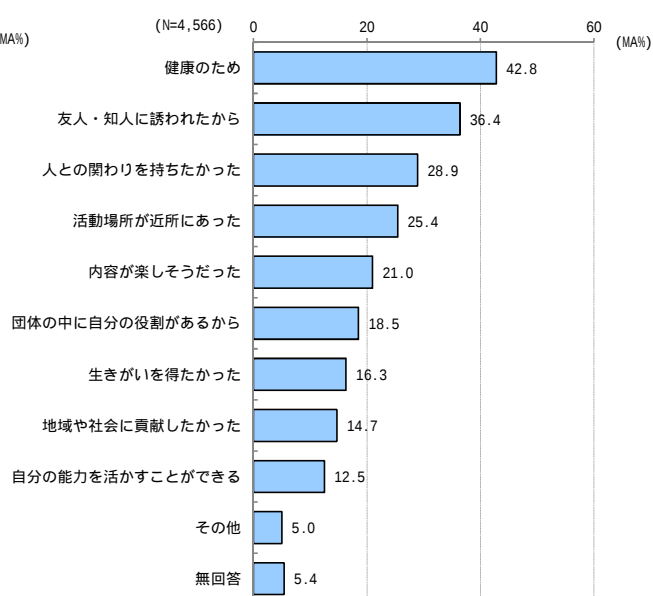
また、地域社会に貢献できると考える活動では、「ボランティア活動」が 21.6%、次いで「地域の防災・防犯などの活動」が 12.6%となっています。

一方で、近所の方がお困りのときに支援できることについては、「安否確認の見守りや声かけ」が 38.3%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が 26.0%、「ちょっとした買い物の手伝い」が 23.3%となっています。

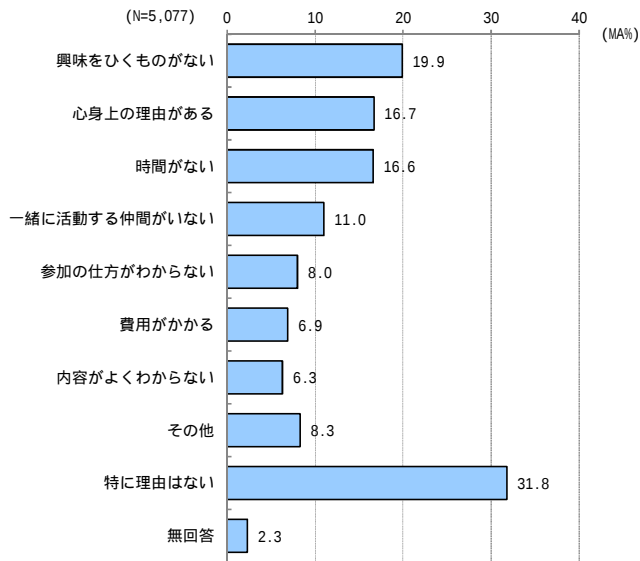
図表 4 - 1 - 15 継続的に参加している団体や集まり



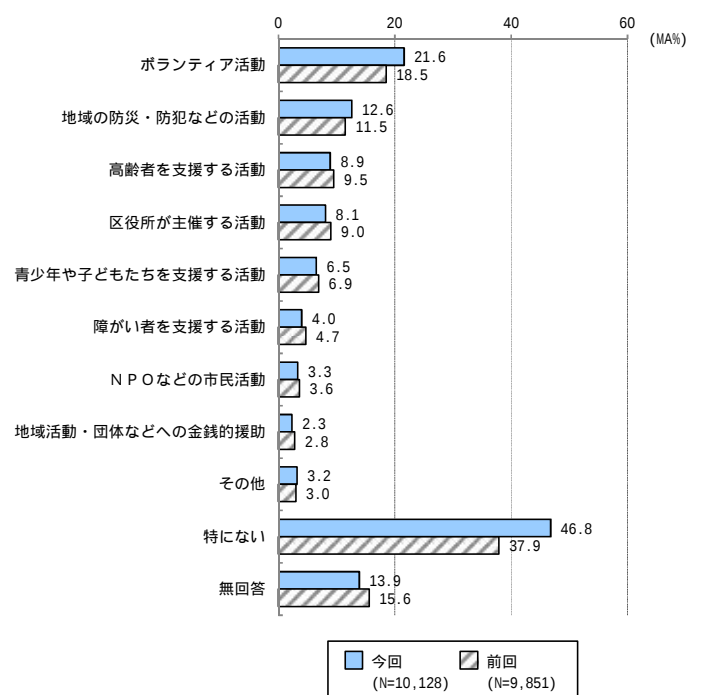
図表 4 - 1 - 16 参加のきっかけ



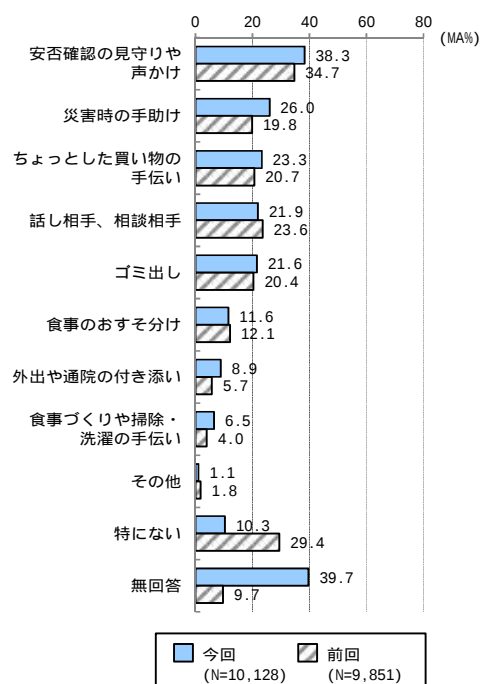
図表 4 - 1 - 17 参加していない理由



図表 4 - 1 - 18 地域社会に貢献できると考える活動



図表 4 - 1 - 19 近隣の方への支援

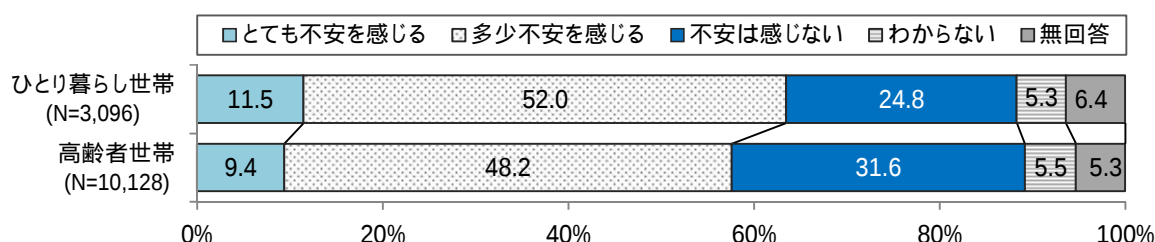


(2) ひとり暮らし調査（本人調査における世帯比較結果）

日常生活全般の不安について

ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活上不安を感じるか」について、高齢者世帯全体と比べると「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」の割合が高く、「不安は感じない」の割合が低くなっており、全体的に、ひとり暮らし世帯の方が、不安に感じるとの回答割合が高くなっています。

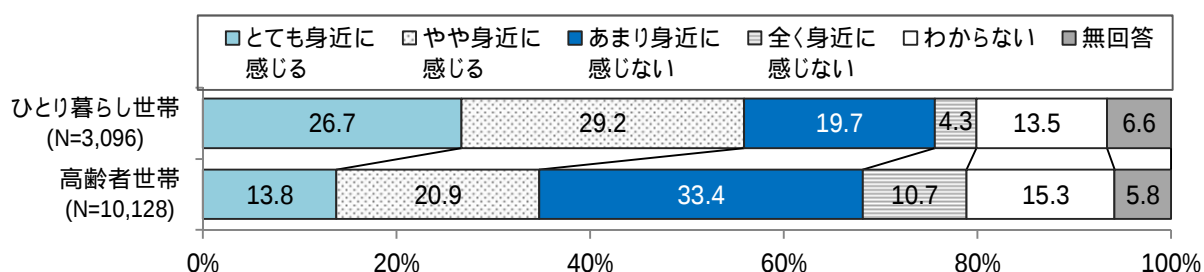
図表 4 - 2 - 1 日常生活全般に関する不安



孤立死について

ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死について考えること」について、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」をあわせた割合は 55.9%となっており、高齢者世帯全体の 34.7%に対して大きな差がみられます。

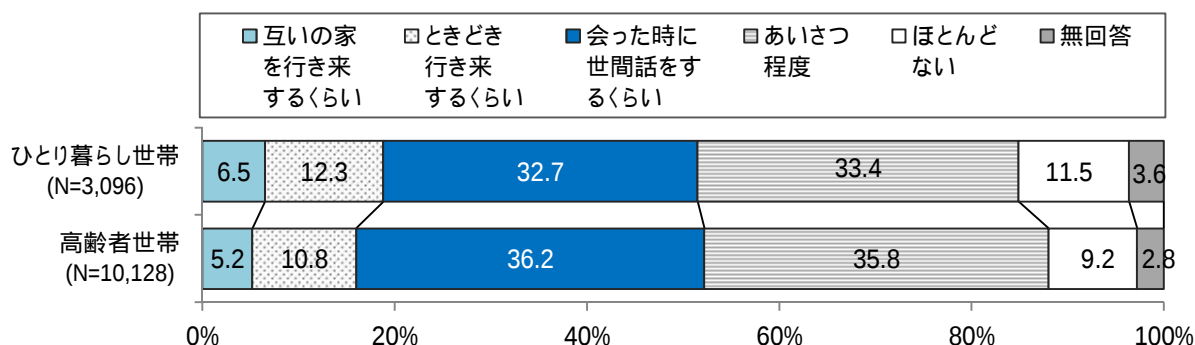
図表 4 - 2 - 2 孤立死に関する不安



近所付き合いの状況

ひとり暮らし世帯の回答者の「近所づきあいの程度」については、「互いの家をよく行き来するくらい」「ときどき行き来するくらい」の回答割合が、高齢者世帯全体に比べて高くなっています。また、「ほとんどない」についても、高齢者世帯全体に比べて高く 1 割強となっています。

図表 4 - 2 - 3 近所付き合いの頻度

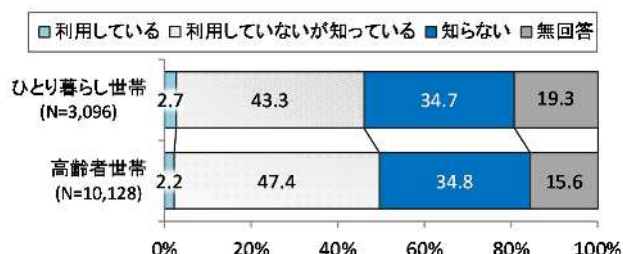


在宅で提供される医療について

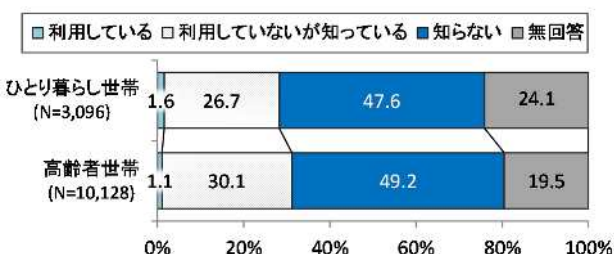
ひとり暮らし世帯の回答者の「在宅で提供される医療」については、いずれの項目も「利用していないが知っている」の回答割合が高齢者世帯全体よりも低くなっています。

図表4 - 2 - 4 在宅で提供される医療

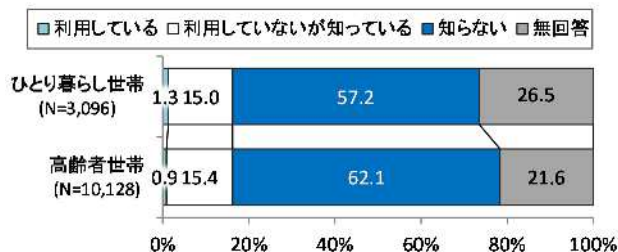
(1) 医師による訪問診療



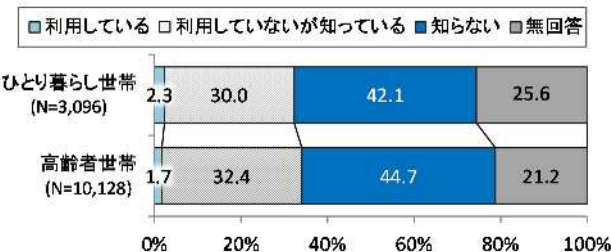
(2) 歯科医師による訪問歯科診療



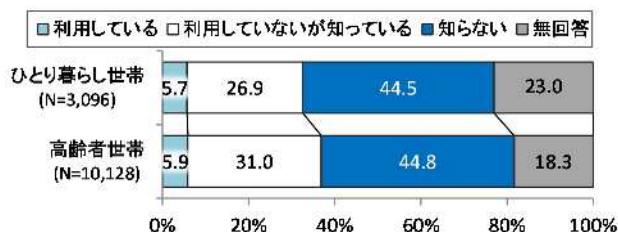
(3) 薬剤師による訪問薬剤管理指導



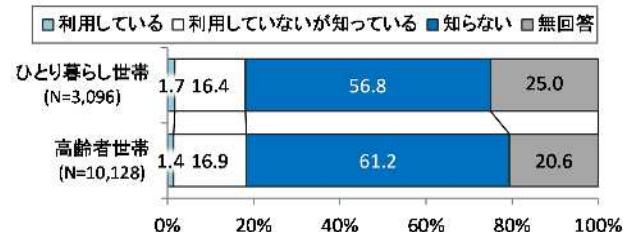
(4) 看護師などによる訪問看護



(5) 緊急時に対応してくれる医師または医療機関



(6) 緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



終末期に過ごしたい場所について

ひとり暮らし世帯の回答者の「終末期に過ごしたい場所」については、「自宅」が31.4%と最も高くなっていますが、高齢者世帯全体に比べると1割低くなっています。「自宅」に次いで「病院などの医療機関」が高くなっています。

図表4 - 2 - 5 終末期に過ごしたい場所

